

中外雑記

臨黄

塩沢管長も参加し托鉢行

●**南禅寺派** ▽兵庫県南部地震被災者救援のため、大本山南禅寺一山挙げての托鉢が一月三十日に行なわれた。このたびの震災では一派の一割近い寺院が被害を受け、宗務当局は被災寺院の復興支援対策に取り組んでいるが、同日の托鉢は一般被災者救援のため募金を呼びかけたもの。塩沢大定管長、高山泰巖南禅僧堂師家、内局各部長、南禅寺塔頭住職と雲衲あわせて約三十人が荷担し、銀閣寺道、丸太町通、鴨川の東を経て南禅寺に戻るまで午前八時半から約四時間かけて連鉢して歩いた。管長自身が加わっての托鉢はまず近年例がなく、塔頭の和尚でも雲水時代以来初めて、という人がほとんど。塩沢管長も衣が茶色であったのを除けば網代笠、脚絆、草鞋の雲水と同じ姿で、被災者救済のため喜捨を訴えた＝写真上【写真は省略】。なお、六日にも同じ時間帯に二回目の被災者救援募金の連鉢を行なう予定。

緊急時対策手引き作成へ

●**妙心寺派** 宗務本所は兵庫県南部地震における本派寺院の具体的な被災状況をまだ最終的にまとめてはいないが、程度の差はあれ境内、伽藍や墓地などに被害を受けた寺院は四十八カ寺を数えることが明らかにされた。一月三十一日に妙心寺で開かれた臨黄合議所理事会の席上、羽賀文圭総務部長が報告したもの。内訳は兵庫教区が四十四カ寺、京阪教区が四カ寺。被害の程度をA～Cの三クラスに区分すると、本堂、庫裡、山門や鐘楼など主要な堂宇が倒壊した被害程度の重いAクラスは五カ寺であった、という。檀信徒の被災状況は調査中だが、住職、寺族の死傷者はなかった

▽兵庫県南部地震の被災者救援に当たってやや本派としての対応が遅れたことに鑑み、宗務当局は現在、地震など大規模な天災、事故発生時など緊急の際の対策マニュアルを製作すべく、具体的な内容の検討に入っている。夜間など執務時間外や幹部が出向して不在時の宗務当局の緊急意志決定システム、対策本部の設置や被災地でのボランティア奉仕などが内容となるものとみられる。時間的に二月の定宗で宗制条文として成文化するのは不可能だが、九月定宗をメドに何らかのかたちでまとめたい（羽賀文圭総務部長）という

▽一月三十日の統務局会議で、地震被災者の一時疎開先として、花園会館を一部提供することが決まった。現地の学校、公民館などで避難所生活をおくっている人たちなどが対象になるが、具体的な条件、方式は神戸市など行政当局と連絡を取り合って決める。遠諱大法会を目前に控えているだけに、期間は二月末頃までという制約があり、期間中も全館・全室を開放するのも不可能であるものの、宗派にとらわれず一派檀信徒以外でも受け入れる方針
▽既報の通り宗務本所は一月二十一日付で各教区、各寺院宛に地震被災者救援の募金実施を通達したが、一部ではこれに先立って募金を進めている教区もある。これに関し羽賀総務部長は「願わくば宗門で一括したいが、喜捨が被災者に届けばいいのであって、何かなんでも本山がやっている募金を優先させろ、と強制するものではない」と述べている

▽宗務本所職員有志（養心会有志）が兵庫県南部地震被災者救援のため一月二十一日から二十七日まで、京都市内で連日托鉢したことは本欄既報の通り。七日間にわたって四条河原町の高島屋前に雲水姿で立ち、道行く人に被災者救援の募財を訴えかけた宗務本所職員は若手を中心に延べ七十六人。集まった浄財は百二十八万七千九百九十九

円にのぼった。この善意の浄財は石田信行氏ら職員四人が代表して同月三十一日、京都市役所を訪れ、義援金受付窓口へ寄託した＝写真下【写真は省略】。また同氏らは小倉宗徳宗務総長ら内局、遠諱局役員から託された義援金二十五万円も持参し、京都市の窓口を通じ被災者救援に役立ててほしいと依頼した

▽震災救援で「何か自分にとっても“等身大”のお手伝いができれば」と被災地にお米二俵を送ったのは静岡県磐田市大蔵寺の望月宗行住職。実家が地震で倒壊したものの、そこに住む親の無事が確認されたので見舞いに行く、という小田遂奥正観寺住職（静岡県袋井市）に委ね、兵庫県の災害対策本部に届けてもらったという。

天台

被災地にさらに五百万円

●**聖観音宗** 総本山浅草寺（壬生台舜貫首）では、先に兵庫県南部地震被災地への義援金五百万円を拠出したが、二十五日、さらに追加分で五百万円を贈った。十九日から本堂や境内の四カ所に設置されている募金箱に寄せられた“善意”を早速役立てたもので、寄託先の東京都台東区を通して現地に届けられる。募金活動は今後、約一カ月間継続する予定

▽浅草寺で育成するボーイスカウト台東第7団の小学生四十五人が一月二十二日、境内で地震災害の募金を行ない、五十五万円を毎日新聞社に寄託した。同団の高校生のメンバーからは現地でボランティアに従事したいとの声もある

▽浅草寺の巡礼の講中「無畏参拝団」が二十日・二十一日に東北方面に行なった恒例の初詣では、参加者六十八人の間で自発的に募金運動が起こり、九万二千五百円が集まった

▽一日十万人が群参する浅草寺で、救援募金の活動を実施する宗教団体も多い。これまでに天台宗東京教区宗務所、浄土宗の青年僧侶でつくる「北山会」、立正佼成会台東教会、アーユス仏教国際協力ネットワークなどが境内で募金を呼びかけた

▽今回の地震で一山関係者や親戚への人的被害はなかったが、大森和潮教化部執事と縁戚関係にある天台宗能福寺（雲井世雄住職）が本堂倒壊寸前など建物に大きな被害を受けた。

神社界

義援金募集を通達

●東京・代々木の神社本庁（白井永二総長）は、兵庫県南部地震発生の日に関白井総長を本部長とした「兵庫県南部地震対策本部」を本庁内に設置し、緊急協議を重ねていたが、このたび被災神社への義援金を募集することを決定、全国神社界に協力を呼びかけている。地震発生以来、本庁では被災地に直ちに職員を送って神社の被害状況を把握、その被害の甚大さから義援金を送ることを二十日、各都道府県神社庁の庁長に通達した。集まった義援金は、本庁がまとめて被災神社があった神社庁に贈ることになる。また同義援金は、昨年十二月に起こった「三陸はるか沖地震」の被災神社も対象となっている。

十八日会が救援物資

▽関西の有力神社宮司らの親睦会「十八日会」は一月二十三日、緊急の会合を開いて兵庫県南部地震の被災神社を援助することを話し合った。その結果、とりあえず救援物資を被災神社に送ることを決定、同二十七日に五人が車で兵庫県入りした。一行は真弓常忠・八坂神社宮司を団長とし、八坂神社から二人、石清水八幡宮から一人、そし

て伏見稲荷大社から一人の禰宜ら五人で構成され、会員神社で特に被害が大きかった西宮、生田、長田、湊川の各神社を訪問した。一行は不足している日用品など救援物資を届け、各神社の宮司らと会って神職らの無事を確認、今後の神社復興への協力を約した。

真言

第三伝道団が被災地へ

●**高野山** 静岡・愛知・岐阜・濃飛の五支所による第三地域伝道団（小野智範団長）は伝道団の単位で、今回の兵庫県南部地震の救援のため様々な活動を展開している。とくに人的派遣を重視し、すでに若手を中心に十数人がボランティアに参加している。一月二十五、二十六の両日は小野団長らが救援物資を満載したワゴン車で現地入り。積み荷の主なものは、しるこ原料三千人分、切りもち一千五百個、あずき・米・砂糖、それにガスコンロ五台。他に日用品として靴下一千、子供用下着二百、セーター三百、マスク三百、使い捨てカイロ、タオル一千本、マフラー二百、石鹸など。ボランティアの本部となっている太融寺（大阪市北区）から、転法輪寺（神戸市垂水区）、浄徳寺（神戸市須磨区）、勝福寺（神戸市須磨区）、光明院（神戸市兵庫区）、金光寺（神戸市兵庫区）、西室院（神戸市兵庫区）、東光寺（西宮市門戸西）それに高野山ボランティアが滞在する西宮市の平林小学校に立ち寄り、積み荷を降ろしていった。三十日には、再び学用品を中心に救援物資を運んだ

▽今回の救援活動に関して、宗団の対応についていろいろと厳しい意見も聞かれるが、小野団長は「“押し掛け援助”なのだから自己責任が原則で、建設的な意見にしろ不平不満を絶対に言わず、自分の身を捨てて現地の担当者の指示に従うこと。それと本部とは常に連絡を密にして二次災害を防ぐ」といった点をボランティアの参加者に言い含めてから送り出している。また「宗団にもいろいろな部署がありますが、今回の援助活動に関しては全てが一体となった高野山のボランティアなのです。長く継続的な援助が必要です」と話している。

福岡の管長祝賀会延期

▽七日正午から、福岡市博多区博多駅前博多全日空ホテルで予定されていた稲葉義猛管長の就任祝賀会が延期となった。この祝賀会は篠田光海・高野山真言宗呑山観音寺（福岡県篠栗町）住職、古賀良洋・同宗観音寺（福岡県飯塚市）住職、藤本弘文・同宗十輪院（福岡県大任町）住職の三人が代表発起人となって、九州各県の高野山真言宗を中心に真言各派に呼びかけて開催する予定だったが、兵庫県南部地震の被害が大きく、祝賀の行事は差し控えるべきだとの判断によるもので、秋に延期された。ちなみに三人の代表発起人のほか、発起人には宗尊幸・高野山真言宗金剛宝戒寺（大分市）住職、高崎真雄・同宗照光寺（福岡県前原市）住職、釜瀬光弘・同宗光明寺（北九州市）住職、米里慶円・同宗金剛山寺（同市）住職、小坂真雅・同宗遍照院（同市）住職、杉原円照・同宗正光寺（大分市）住職の六人が名を連ねている。

今こそ濟世利民の精神を

●**各山会** 兵庫県南部地震で真言宗の各寺院も多大な被害を受けた。被災寺院並びに被災者への対策を講じるため、緊急の臨時常任委員会が一月二十五日に開かれた＝写真【写真は省略】。常任委員会では、被害のなかった十五本山から、兵庫県下の大本山中山寺、大本山須磨寺、大本山清澄寺の三山に対してそれぞれ二十万円ずつ義援金を拠出することや、三月六日に各本山が一斉に物故者供養法要を営むことなどを決めた。なお、清澄寺は被害が少ないとの理由で辞退し、事実上、義援金は中山寺と須磨寺へ贈られることになる。その他、人的支援や救援物資の問題、また、被災寺院だけでなく被災者に対する支援のことも議論されたが、結局、各本山の判断にまかされること

になった。会議の席上では発表されなかったが、「被災に遭った寺院は大変お気の毒で、被災寺院に対する支援はもちろん大切なことだと思う。しかし、それよりも檀信徒を含めた被災者全体への支援の方が大事ではないか。こんな時こそお大師さんの『済世利民』の精神を実践すべきではないか」との意見もあった
▽なお、同委員会では、今回の震災に対して、各派の青年教師がいち早く現地に飛び、ボランティア活動を行なっていることも報告された。

社説

救援物資とともに情報も運んだ住職

京都市内の浄土宗西山深草派寺院住職・吉良潤氏は先日、兵庫県南部地震（阪神大震災）の被災地で、一市民として「一日ボランティア」活動をした。尼崎市から芦屋市まで、救援物資を運ぶ奉仕作業である。

尼崎市の檀家が市民救援組織に所属しており、今度の地震でも芦屋市の仲間と連絡をとり、物資輸送サービスをしているという。道路は車で渋滞しているから、バイクが自転車による小規模の輸送が効果的だと聞かされた。

「その程度のことなら私にもやれそう。法務に関係のない一日だけでもやらせていただこうと、京都市内の檀家回り用のバイクを持ち込み、息子と交代で尼崎－芦屋間を合計七回、往復しました。運んだのは医薬品や炊事用コンロ、お米などですが、双方からの連絡事項や各種の情報などのメッセンジャー役も務めました」

地震発生直後から、大規模な救援物資輸送が開始され、大きな効果をあげているが、一カ所に同じ物資が集中することもありうる。どの地区に、何が最も不足しているかの情報は、民間組織同士によるキメ細かな連絡が効果的である。「個別の情報の大切さということ、改めて認識させられました」と吉良氏は言う。

「情報の大切さ」ということは、筆者もこんどの地震で、たびたび感じさせられた。肉親や知人の安否はもとより、何市のどのあたりがどんな被害を受けたのかということが、テレビや新聞の報道では全くつかめなかった。それというのも、各メディアの報道の手法が、従来の災害報道の際と全く同じパターンで展開されたためではないだろうか。

朝出勤して、夜に帰宅するという生活をしている筆者が得る地震情報は、朝晩のテレビと、朝夕刊の新聞だけである。地震発生直後にそれらマスコミが競って伝えたのは、倒れた高速道路、傾いたビル街、そして長田区での火災などであった。被災者には申し訳ないが、マスコミ仲間という“絵になる”場面ばかりである。

かつて新聞社にいて、情報を発信する側にいた筆者は、この“絵になる”報道に、すっかりまどわされてしまった。たしかに海岸に近い低地帯では、大きな被害が起こった。しかしほかの住宅街は、地盤が固いから大丈夫だろう、と。つまり従来は「部分」の深刻さが強調されるあまり、それが「全体」に拡大されて伝えられがちであった。今回も恐らく、テレビ画面に登場しない「全体」は被害軽微であるに違いない。

その考えが甘いと気づいたのは、地震発生から二日目の夜であった。安否が分からなかった神戸市西部の親戚から、「家は倒れたが、全員無事」の電話があった。またある新聞には、同市東部の自宅が倒壊し、命からがら脱出した記者の手記が掲載されていた。犠牲者の数も千人単位で刻々と増え続けていた。どうやら今回の地震に限っては「部分」が「全体」そのものであったようだ。

ではその「全体」とは、どこからどこまでをいうのか。震源の淡路島と、神戸市中心部の様子は、早くから伝えられていたが、どの町のどのあたりがどの程度やられたのかという、「部分の集積としての全体」像は、テレビ視聴者にも新聞の読者にもなかなか伝わらなかった。西宮市にも避難所が設けられて、千人以上の被災者が収容されていることがブラウン管に映し出されたのは、地震発生から数日後だった。

さらに二週間後、驚くべき情報が入った。兵庫県宝塚市北部の住宅街に住む友人から「今やっと電話が通じたからお知らせする」と言い、「このあたりは住宅倒壊ゼロと伝えられているが、軒なみ屋根が落ちている。それなのに新聞もテレビも、全く報道してくれない」と、不満そうである。

この友人もかつてライバル社にいた記者仲間で、マスコミ事情に詳しい。「兵庫県の宝塚、伊丹、川西などの地

域は、どこの新聞社も手薄で、一人の記者にかけもち取材させており、テレビ局の記者はめったに回って来ない。だから地震報道も後回しにされるのだ。元記者の私が言えた義理ではないが、兵庫県には神戸市しかないのか、と言いたくもなるよ」

NHKの千人をトップに、各社数百人を投入したといわれる地震報道にも、このような盲点があったわけだ。いわば「情報の偏在」である。だから、一日ボランティアをした西山深草派の吉良氏がバイクで運んだメッセージの中にも、大きなマスコミが伝えきれなかった大切な情報がたくさん含まれていたことだろう。

中外日報社も微力ながら、地震後の数日間、記者団を現地に派遣して、各宗教団体の被災状況を写真入りで特報し、宗教界から「地震の実態がよく分かった」と評価された。

そこで有力な宗教団体に提言したい。各団体がいち早く被災地に送り込んだ救援物資輸送チームは大きな力を発揮したし、犠牲者の供養などの面でも、感謝の的になった。それに加えて「情報伝達サービス」をする道もあるのではないかと、いうことである。輸送班の誰かが携帯電話を持参して、現地で「私は無事」「どこへ避難した」などの訴えを聞き、本山や本部を通じて近親者に知らせることはできないであろうか。

これには、平素から携帯電話回線を確保しておく必要があるが、NTTなども、非常時には即時、臨時の回線を提供するなどの柔軟さで臨んでほしいものである。

真宗

豊島南北などに大きな被害

●**本願寺派** 今回の兵庫県南部地震で兵庫教区（土基謙教教務所長）に次ぎ教区内の寺院に大きな被害が出ている大阪教区（吉川孝臣教務所長）では先週初めから職員を各組、各寺院に派遣して被害状況の実態調査を進めているが、一月二十七日午前十時の時点での本山宗務所の調べでは百六十二カ寺が何らかの被害を受けていることが判明、地域的に見ると豊中、池田、箕面の各市や大阪市北部の寺院の被害は甚大だが、被害寺院はほぼ府下全域に及んでいる。被災寺院は次の各寺院

【河中南組】

▽正行寺（出原遵乗住職）＝外陣天井破損▽永照寺（秋本之雅住職）＝屋根瓦落下

【茨田組】

▽浄宗寺（月■昭見住職）＝本堂、庫裡壁破損▽乗得寺（金林良治住職）＝同▽善照寺（藤岡修住職）＝同▽教應寺（芳浦定年住職）＝同▽金光寺（千葉正信住職）＝同▽専隆寺（林秋圓住職）＝灯籠倒壊▽明覚寺（塚本顯文住職）＝本堂瓦落下▽正迎寺（那須晃勝住職）＝本堂、庫裡壁破損▽得浄寺（塚本芳彰住職）＝本堂瓦落下▽真楽寺（高藤敏朗住職）＝本堂、庫裡壁落下▽難宗寺（芳滝直樹住職）＝灯籠倒壊

【讃良組】

▽正願寺（佐々木博文住職）＝本堂、庫裡一部亀裂▽西光寺（佐竹信住職）＝同▽勝光寺（羽曳野常信住職）＝本堂、庫裡一部亀裂、傾斜▽常光寺（佃法雄住職）＝屋根瓦落下▽教照寺（岡橋義隊住職）＝塀壁一部亀裂▽蓮光寺（上田大雅住職）＝本堂、庫裡一部亀裂

【交野組】

▽無量光寺（久野龍英住職）＝土塀瓦一部破損▽妙教寺（西本卓爾住職）＝壁一部亀裂▽正光寺（日野賢住職）＝本堂・庫裡間亀裂▽浄念寺（松川正英住職）＝灯籠倒壊▽西正寺（茨田信也住職）＝向拝一部損傷▽善行寺（亀井信昭住職）＝本堂、庫裡一部亀裂▽善林寺（明石恵實住職）＝同▽善通寺（生田秀了住職）＝灯籠倒壊▽浄行寺（義本志導住職）＝本堂瓦落下、壁亀裂▽西念寺（戸川正憲住職）＝灯籠倒壊▽正宗寺（飛鳥直仁住職）＝内陣一部亀裂▽本誓寺（高橋義成住職）＝外壁亀裂▽浄専寺（關信證住職）＝灯籠倒壊▽法音寺（朝山俊彦住職）＝同

【島上西組】

▽万徳寺（氷室暢夫住職）＝庫裡ガラス損傷、壁亀裂▽因光寺（鷲山諦住住職）＝灯籠倒壊、壁亀裂▽本照寺（日野照正住職）＝灯籠、墓倒壊、壁亀裂▽憶念寺（澤間了充住職）＝本堂瓦落下▽真楽寺（長尾祐道住職）＝同▽圓

覺寺（松本鶴栖住職）＝壁亀裂▽常見寺（利井明弘住職）＝屋根瓦落下、壁亀裂▽願行寺（鎌苅孝雄住職）＝庫裡瓦大半落下

【島上北組】

▽本覺寺（山本香憲住職）＝本堂壁、仏具一部損壊、庫裡瓦落下▽浄教寺（入江唯信住職）＝庫裡瓦落下、壁破損▽速證寺（植木信證住職）＝本堂瓦、仏具、壁損壊▽教宗寺（田淵泰彰住職）＝壁破損▽正恩寺（織元久住職）＝本堂壁破損▽萬福寺（西川得了住職）＝本堂壁、天井破損▽長楽寺（植木弘昭住職）＝瓦、壁破損▽西福寺（三島淳文住職）＝本堂壁破損

【島中南組】

▽誓源寺（野口宗雄住職）＝壁破損▽常願寺（味府寛了住職）＝鐘楼柱傾斜▽信楽寺（奇山秀憲住職）＝壁破損▽仏照寺（佐々木才正住職）＝庫裡瓦破損

【茨木東組】

▽勝光寺（高丘寿住職）＝本堂瓦、壁一部破損▽仏誓寺（西田光鉦住職）＝本堂壁一部破損

【茨木西組】

▽西宗寺（今田達雄住職）＝本堂亀裂、一部破損▽證西寺（明靈純住職）＝本堂瓦一部落下▽徳要寺（櫻井善讓住職）＝灯籠倒壊▽願成寺（小島隆彦住職）＝本堂瓦一部落下、壁亀裂▽善照寺（岡玄雄住職）＝本堂瓦一部落下▽慶徳寺（調龍信住職）＝同▽慈明寺（安間顯正住職）＝本堂内陣、壁破損▽明教寺（山中恵淳住職）＝本堂破損、庫裡壁破損▽安楽寺（太田得生住職）＝本堂障子、壁破損▽善永寺（佐藤輝道住職）＝本堂破損、渡り廊下傾斜▽光明寺（高階明叡住職）＝本堂傾斜、一部破損

【豊島南組】

▽西福寺（榎原清了住職）＝山門、鐘楼倒壊▽弘誓寺（清基英昭住職）＝本堂、庫裡一部損壊▽託明寺（葛野勝規住職）＝本堂、庫裡一部損壊▽超光寺（藤前唯信住職）＝本堂、庫裡半壊、井戸屋形全壊▽興法寺（源道尚住職）＝本堂、庫裡大半破損▽養照寺（丸川聡住職）＝本堂、庫裡一部破損▽永照寺（陰山正信住職）＝本堂倒壊▽常光寺（末政無極住職）＝本堂傾斜、庫裡半壊▽小畑元昭住職）＝山門半壊▽善徳寺（好井正良住職）＝本堂、庫裡半壊、山門倒壊▽西法寺（星野親行住職）＝本堂、鐘楼傾斜▽恵光寺（笹島勝恵住職）＝渡り廊下全壊、本堂内陣仏具破損▽忍法寺（西岡美福住職）＝本堂、庫裡一部損壊▽正福寺（末本喜久次住職）＝本堂損壊、山門傾斜▽浄徳寺（常原康隆住職）＝本堂、庫裡傾斜

【豊島北組】

▽報恩寺（櫻井義超住職）＝本堂壁破損、庫裡瓦落下▽如来寺（平興誓住職）＝墓倒壊▽如来寺（釋晃住職）＝本堂損壊▽善福寺（石原章之住職）＝本堂瓦一部落下▽受楽寺（稲津田鶴子住職）＝壁破損▽専敬寺（山上亨真住職）＝内陣破損▽金龍寺（佐倉恵成住職）＝厨子破損▽光明寺（西澤瑞雄住職）＝本堂壁破損▽正安寺（畠山信龍住職）＝庫裡瓦落下▽専宗寺（小寺了雲住職）＝本堂瓦落下▽浄行寺（楠原中住住職）＝本堂、山門瓦落下▽正國寺（津田昌信住職）＝石碑倒壊▽法正寺（樋口信行住職）＝本堂傾斜、庫裡瓦落下▽西宝寺（古重俊昌住職）＝本堂一部破損▽光源寺（陰山昌雄住職）＝本堂破損▽法雲寺（辻本純孝住職）＝本堂瓦全部落下▽常楽寺（畠山信亮住職）＝庫裡瓦落下▽正智寺（山岸正孝住職）＝山門倒壊

【大島南組】

▽了源寺（鷲尾一行住職）＝塀瓦一部落下

【三郡組】

▽善称寺（藤田正昭住職）＝本堂瓦落下▽西性寺（根来亮裕住職）＝庫裡壁一部破損▽圓勝寺（中務勝寛住職）＝本堂一部破損▽緑照寺（横田光昭住職）＝同

【南郡組】

▽願泉寺（卜半幸三住職）＝山門（重文）破損、塀破損

【日根組】

▽南海寺（藤基忠夫住職）＝本堂一部損壊

【芽渚組】

▽元成寺（根来英純住職）＝壁破損▽西法寺（本間紹嗣住職）＝本堂一部破損▽妙安寺（船倉亮純住職）＝同▽明
嚴寺（船倉知秀住職）＝同▽真光寺（和田照也住職）＝塀破損、瓦破損▽正善寺（吉川徹眞住職）＝壁一部、瓦破
損▽弘誓寺（石川昭文住職）＝庫裡瓦落下▽善照寺（清川弘恵住職）＝壁一部破損▽正法寺（豊田正宣住職）＝本
堂瓦傾斜

【大阪東組】

▽超願寺（森祐鉦住職）＝塀一部損壊、瓦落下▽尊光寺（尾木原昭美住職）＝同▽真法院（藤溪純子住職）＝同▽
長光寺（雄郷了勝住職）＝同▽浄照坊（源義春住職）＝同▽光臺寺（藤溪純子住職）＝同▽圓光寺（足利誠正住
職）＝同▽長圓寺（富樫龍健住職）＝同▽信楽寺（由利真哉住職）＝同▽長願寺（新発田慧勝住職）＝同▽常満寺
（星合良一住職）＝同▽龍泉寺（雄郷了勝住職）＝同

【大阪西組】

▽廣教寺（大谷照英住職）＝本堂、庫裡瓦落下▽浄徳寺（三原暁誠住職）＝庫裡瓦落下

【大阪南組】

▽正宣寺（寺本龍史住職）＝塀、仏具破損▽光西寺（華学璋文住職）＝灯籠倒壊

【大阪北組】

▽西善寺（山内八十枝住職）＝庫裡壁破損

【中島西組】

▽専龍寺（高木晃雄住職）＝本堂瓦一部落下、鐘楼傾斜▽蓮正寺（吉光了願住職）＝本堂瓦一部落下、鐘楼、山門
傾斜▽善久寺（高橋義信住職）＝墓一部倒壊▽圓称寺（松本照憲住職）＝本堂等瓦落下▽大恩寺（大内乗純住
職）＝本堂瓦一部落下▽信正寺（滝野信隆住職）＝本堂一部損壊、本尊破損▽光専寺（末弘秀徹住職）＝本堂壁損
傷、山門傾斜▽壽光寺（田鶴浦正英住職）＝本堂、庫裡、渡り廊下損傷▽定秀寺（光久教詮住職）＝鐘楼、山門倒
壊、本堂傾斜▽超安寺（澤間弘正住職）＝墓一部倒壊▽真教寺（播磨照浩住職）＝山門損壊

【中島組】

▽正徳寺（奥田範美住職）＝本堂壁一部破損▽圓宗寺（見澤昭憲住職）＝同

【榎南組】

▽真照寺（吉川俊雄住職）＝本堂内部壁落下

【東成組】

▽安楽寺（三島義見住職）＝本堂壁亀裂▽真行寺（貴島信行住職）＝同▽光明寺（羽野弘住職）＝本堂瓦一部落下

【東住吉組】

▽林覚寺（奥野秀溪住職）＝山門瓦落下▽性応寺（奥田見龍住職）＝本堂壁一部落下▽信行寺（橘龍照住職）＝本
堂壁一部亀裂▽源光寺（和田英文住職）＝本堂瓦一部落下▽円明寺（北條敏彦住職）＝本堂、庫裡壁一部亀裂▽西
光寺（天岸浄圓住職）＝本堂壁一部亀裂▽光西寺（山岡智司住職）＝同

【住吉組】

▽真光寺（槇野秀一住職）＝本堂屋根傾斜

【西淀川組】

▽成覚寺（藤末正信住職）＝本堂壁破損

▽このように多数の教区の寺院に被害が出ている中で吉川教務所長は自教区と隣の兵庫教区の両方の対応に追わ
れ、多忙を極めている。教務所職員に兵庫教区に送る救援物資についてこと細かに指示を与える一方で、職員が実
地調査し各組ごとにファイルされた教区内の被災寺院の状況に目を通して、これら被災寺院をどのように援助して
いくかの対策を検討。また、自らが輪番を務める津村別院の瓦が五千枚も損傷したことには「まだ詳細に調査して
みないと分からないが五千枚ほどが損害を受けています。別院の瓦は別注の瓦なので…」とその修復費が多額にな
りそうなことを懸念していた。兵庫教区の救援については、同教区は僧伽基金と仏教婦人会のダーナ基金から各々
三百万円、津村別院から百万円の合計七百万円を見舞金（義援金）として送っており、教区内の被災寺院について
は本山からの見舞金三百万円と教区内からの義援金などで対応する方針

▽なお、一月二十八日付の本欄記事中で大阪教区が本山からの見舞金三百万円を辞退した、というのは誤りでし

た。ここに訂正致します

▽二十一日付「兵庫県南部地震特報」の本願寺派被災寺院の一覧中に神戸西組の法泉寺（多村義之住職、長田区）の本堂、庫裡が全焼した、とありましたのは誤りです。同寺は激しい揺れで本堂内陣の仏具が落下して損傷するなどの被害はありましたが、本堂、庫裡は無事で寺族の方々も全員が無事です。関係者並びに読者の皆様にご迷惑をおかけいたしましたこととお詫びし、ここに訂正させていただきます。

本山が被災者受け入れへ

●大谷派 能邨英士内局は兵庫県南部地震の被災者を本山で受け入れることに決めた。場所は同朋会館三階で、五十畳（三室）、四十五畳（一室）、二十畳（三室）を開放。期間は六日から三月十五日までで、約百人に食事や風呂などの対応をする。ただし、大阪府の要請により大阪府を窓口にした場合に限るという

▽宗、参両議会も義援金を各々、百万円ずつ送ることになった。宗議会では与野党の垣根を超えて各議員がカンパし、参議会は個人と同朋議員団から善意を寄せ合った

▽蓮如上人五百回忌に向けた『総局通信』第八号が出された。昨年十二月十四日に開かれた部次長連絡会で能邨宗務総長が挨拶した「自信教人信の一が生まれる環境をいかに整備するか」をまとめて掲載。このほか、京都駅地下道の電飾掲示板で始めている五百回忌のPRなどの情報も提供している

▽能邨宗務総長の挨拶で目を引くのは、五十億円を計上したものの用途が未定の教学振興事業推進資金に関する部分。能邨宗務総長は資金の一部を大谷大学図書館改修に充てたい考えのようだが、昨年、訪れた北米の開教事情から教化の環境を整える必要があると主張。懸案の同大学図書館改修計画などが重要な意味を持つと訴えている。

福井地震を思い出す

●三門徒派 兵庫県南部地震の際、朝勤の準備をしていた平光顕門主。グラッときた瞬間、御影堂を残して本山境内の諸伽藍が壊れた福井地震を思い出したという。当時、平門主は小学校六年生で夕方、帰宅してランドセルを置いた途端に被災。ものすごい揺れと音から一目散に表へ飛び出すと、内事の屋根がピョンピョン飛び跳ねているように見えたという。立ってられないので庭木にしがみついていると、あっという間に各伽藍が崩れ去ったそう。幸い、門主一家にけがはなかったものの、市内の家屋もほとんど倒壊、本山からJR福井駅まで見渡せるほどだったと直下型地震の恐ろしさを話していた

▽兵庫県西宮市に住む平門主の実弟・小野光晃氏は建物一部に損害があった程度で大事に至らなかったそう。

曹洞

中嶋、戸田議員が辞任

●曹洞宗参禅道場の会（酒井得元会長）は全国役員会並びに佐藤正道副会長（鳥取市・森福寺住職）の権大教正補任・永平寺顧問就任を祝う会を一月二十六日、熱海の大観荘で開催した。席上、緊急動議で兵庫県南部地震で被災した会員寺院に見舞金を送ることが採決された。会の発展と参禅道場の充実に貢献している会員に対する「愚徹賞」の表彰は千葉県印旛村の東祥寺住職清水惟一氏（副会長）と北海道室蘭市の安楽寺住職丹羽安基氏が受賞し、酒井会長から「糞掃九条僧伽梨衣」が手渡された。祝賀会は清水副会長の発声で乾杯。吉岡博道事務局長から佐藤副会長に記念品が贈られ、役員一人々々が祝辞を述べた

▽宗務庁の佐々木孝一総務部長は、宗務庁で募金する兵庫県南部地震の義援金を宗門寺院への支援と一般被災者への救援金の二本立てとすることを表明した。当初、集まった義援金は全額を宗門寺院の支援に充てると発言したことに反発が出たため、前言を翻した恰好だ

▽駒沢大学は、兵庫震災の救援活動を志願する学生ボランティアに対し、大学として大阪までの往復運賃、二次災害に備えての保険金、その他を支出することを決めた

▽兵庫震災の学生ボランティアは、曹洞宗国際ボランティア会の呼びかけに応じて、駒沢大学、愛知学院大学、東北福祉大学、鶴見大学、駒沢女子大学等の宗門関係大学から約百人が参加を予定している。

法華

身延山でも救援活動

●**日蓮宗** 総本山身延山久遠寺（岩間日勇法主）では、このたびの兵庫県南部地震について、第一報と同時に、藤井教雄総務を本部長、各部長を副本部長、各部主任を本部員とする「救援本部」を設置し、救援活動に乗り出した。まず一月二十三日には、山務員の押田玄要、町田英昭両氏、それに身延山の職方や実習生ら七人が身延山山林部所属の二トントラックと布教車（ワゴン車）に乗り込み、飲料水（二リットル入りのミネラルウォーター七百本）、トイレトーパー（二千四百個）、大型防水シート（三十枚）、乾電池（千八十個）、食料品（みのぶ饅頭二千五百個）等を満載して、大阪市中央区・雲雷寺（伊丹栄彰住職＝身延山・祖山常置会議員）経由で被災地（神戸市）に向かい、神戸市役所や身延山の信徒が多く住む神戸市長田区大谷町など被災現場に立ち寄りながら、これらの物資を届けて回った。物資の運搬にあたっては、この輸送隊に加え、事務手続きのために佐野智尚、秋山智雄の両氏が先発隊として、新幹線等を使い継いで現地入りしている。また、これと並行して一月二十一日には布教部を中心に、義援金募集の唱題行脚隊を組み、身延町内を一巡した結果、一日で百五十万円ほどが集まったという。唱題行脚隊には五十五人が参加、出発に先立ち、本堂前において功刀貞如布教部長の導師で法味を言上し、被災者の一刻も早い再起と亡くなった人の回向を執り行ない、布教車・伝道車を先頭に、二コースに分かれて身延町内を一周した。行脚隊の集めた義援金に、身延山からの百万円、スリランカ別院・ロータスファンデーションからの十万円を加えた合計二百六十万円余りは、地元の山梨日日新聞社・山日文化厚生事業団を通じて、災害者に届けられることになり、一月三十日、功刀布教部長と布教部の内藤歓祐、町田英昭両氏の三人が同事業団を訪れて、義援金・見舞金を手渡した。このほか、身延山ではただちに阪神地区の関係寺院と本願人に「お見舞い状」を発するとともに、安否の確認の依頼、さらに身延山で経営している大学（身延山短大）、病院（身延山病院）、老人ホーム（特別養護老人ホーム「みのぶ荘」と老人ホーム「功德会」）をはじめ、篤信会、本願人会などの各関係機関にも呼び掛けて、さらなる義援金の募集を行なっている。特に身延山病院では、医師・看護婦・薬剤師等で医療団を組織し、身延山の救援隊第二団とともに、三日から五日までの日程で宝塚市、芦屋市、西宮市などを訪れ、大阪本願人会と協力して、医療の手薄な所で広く一般の人を対象にした活動を行なうことにしている。なお、身延山の「救援本部」の窓口は庶務部（上田本昌庶務部長）が担当しているが、宗務院とも連絡を取りつつ、今後も当分の間、活動を続行することを決めている。義援金の送り先と問い合わせは、身延山内の「救援本部」（〇五五六六－二－一〇一一）まで。

浄土

被災地に学用品を贈る

▽日本書直文化研究所の所長として書道教育の普及と啓蒙に尽くしている加藤達成佛教大学教授は、自坊のある京都府綴喜郡田辺町で兵庫県南部地震に対する救援募金活動を行ない、田辺町教育委員会に学用品と義援金を贈った。また奈良の墨運堂、京都の古梅園、呉竹から墨と筆が寄贈され、紙屋の奈良の福西からは救援に半紙が送られてきた。小さなトラックで一杯分となったので現地に救援物資として贈った。三十一日には佛大四条センター所員

十五人の協力を得て、同センターのある四条鳥丸交差点で義援金の募金活動を行なう。加藤氏は「できることはこの程度ですが、業者の皆さんや地元の応援でおおよその目的を達成することができました」と語っている。

新宗教

節分行事費用を義援金に

●**観音聖教** 三日に予定されている節分行事「吉祥会」は予定通り行なわれるが、福撒きなどは規模を縮小して兵庫県南部地震義援金に回し、被災地からの総琳壇への参拝依頼が多いことから、被災地の人々の体験談を聞く機会を設け、今後の地震に対する備えにすることになっている。

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)